

# まえがき

高層気象台長 安藤 正

高層気象台は高層大気を専門に観測する気象台として、1920(大正9)年8月に設立された。2016(平成28)年は創立96年目である。高層気象台彙報は1923(大正13)年に第1号が発刊され、本号で第74号となった。

高層気象台では、地上気象・高層気象やオゾン・紫外線・日射・赤外放射等の観測を現業的に実施しているとともに、これらの観測に係る技術開発・改良、試験、調査・研究、技術支援・研修、国際協力等を併せて実施している。現業的な観測と技術開発、調査・研究等を業務の両輪として並行して実施していることが高層気象台の大きな特長である。

こうした技術開発、調査・研究等の成果を、高層気象台内での利用だけではなく、広く公開して利用していただくため、高層気象台では「高層気象台彙報」として毎年取りまとめ、公表している。本号では2編の技術報告と1編の解説を掲載した。これらが高層気象観測技術や関連する気象業務の発展に貢献することを期待する。

高層気象台彙報は発刊以来、印刷物として関係機関等に配布してきたが、2011年発行の第69号からは印刷物に加えて高層気象台のホームページにも掲載している。現在ホームページでは第64号以降の号が掲載され、どなたでもダウンロード可能である。読者の皆様におかれては、掲載された報告を業務や研究の参考にさせていただくとともに、ご意見やご質問等をお寄せいただくよう、切にお願いする。

最後に、本号掲載の各報告の査読を行っていただいた、気象庁関係部局等の各分野の専門家の方々に深く感謝の意を表すとともに、現業観測等で多忙な中、技術開発や調査・研究等を遂行した当台職員の労をねぎらいたい。